

健康登山41:周辺の山21 (曾爾 兜岳・鎧岳)

コース	榛原駅 タクシー40分 延命地蔵登山口 0.7km/47 0.7km/34 鎧岳 1.0km/45 林道合流 2.2km/33 兜岳 0.6km/26 峰坂峠 曾爾村役場前バス停		
水平距離	5.1km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	9.3km		
累計高低差	登り460m、下り675m		
標準歩行時間	3:05		
実績歩行時間	4:02		



山行報告

山行日 2008・10・02 (木) 天候 快晴 参加者 4名

行 動 榛原駅9:35 タクシー 延命地蔵登山口10:15 ~ 10:25 兜岳11:20 ~ 12:15(昼食) 峰坂峠
12:55 鎧岳山頂13:35 風呂谷西側ショートカット道14:20 峰坂峠下山道と合流14:35
金強神社15:10 村役場前15:57 (バス) 榛原駅17:15 着(解散)

記 録

台風15号も熱帯低気圧に変わり快晴となった。榛原駅から登山口の延命地蔵までタクシーを利用した。地蔵堂前の道路は意外と広く駐車スペースもある。準備運動をしてお堂前の沢道から歩き出す。程なく植林帯と笹原の急坂だが「亀歩？」のマイペースで登る。やがて一枚岩の岩盤にでると少し展望が開ける。そして本日のクライマックス「急斜面の登り」が待っている。しかし9月の古光山の過激な岩稜登りをメンバー全員が体験しているためか、あの古光山の岩稜に比べたら、楽しく「かる～く」こなせた様であった。

兜岳で早めの昼食。南西方向に大峰、台高山系が鮮明に見える。個々の山の名前が判りづらく大まかな見方でお茶を濁す。山名方位盤が欲しいぐらい山がよく見えた。

兜岳から峰坂峠へ至るやせ尾根では、鎧岳の垂直に落ち込む大岩壁が目前にあり、曾爾高原、俱留尊山、古光山などの美しい山並みが見渡せる場所である、だが道幅80cm程の痩せ尾根だ、落ちたら一大事、慎重に景色を楽しむ。

峰坂峠から鎧岳はフィックスロープもある急坂だが、九十九折れ道であり、曾爾村のコースタイムと同じ40分で頂上に着く。遠くに見えていた曾爾高原は、鎧岳山頂からは手に取るように近い。峰坂峠を通らずに下山するショートカット道があり、この道を下ると、標高600m付近で峰坂峠から来る道と合流した。程なく金強神社に着く。本殿が見えず、入口の「山の神」で代参をすます。神社からすぐ「ヒダリマキガヤ」群生地の案内板があり、探したが見付けられず、ここもパスする。そのまま道なりに下ると東海自然歩道に出た。

左は葛バス停、右は中小場集落から曾爾横輪バス停の道標があり、迷わず右を選んだ。

自然歩道で振り返ると、鎧岳の見事な秀峰が、我々を見送っているかのようなロケーションであった。村役場バス停に、ゆとりの到着が出来た。

周辺の山（曾爾 兜岳・鎧岳）



兜岳山頂にて
12:10

古光山(右)
と後古光山
12:43



景色を見る
12:44

逢坂峠への
下り道
12:52



鎧岳山頂にて
13:47

南から見た
鎧岳
15:31



背景は倶留尊山
と曾爾高原
15:33



山麓から見た
曾爾高原
15:33

山麓から
兜岳と鎧岳
15:47



名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：兜岳 鎧岳）

参考資料、／HP、奈良の伝説、その他より

- ◎ 曾爾三山：兜岳、鎧岳、屏風岩は曾爾三山とよばれ何れも国の天然記念物に指定されています1千万年前、倶留尊山が噴火したとき、流れ出た溶岩によって形成されたといわれています。

【兜 岳 920m】：雌嶽とも称されています。三山の中での最高峰。
兜の釜のような円錐形をしている。

【鎧 岳 894m】：兜岳の雌嶽に対し、雄嶽と呼ばれる。昔は大日如来を祀ったという。
山腹に太神宮の社がある。「葛」地域の例祭は12月1日。
山腹の100～200mもある三段からなる柱状節理の岩壁は、鎧の草摺に見立て、鎧の胴に譬えられている。鋭峻で特徴ある山容は曾爾のシンボルでもあります。

「葛なる 鎧が岳を 着てみれば そよふく風に くさずりの音」

西行法師

葛(かずら)の相輪(あいは)に葛(くさ)がたくさんあったので「葛」の地名になった。

【屏風岩 866m】：高さ200m、長さ1.5kmにわたって続く壮大な岩の壁。
春には、ミツバツツジ、秋には紅葉が麓を覆う。山麓の屏風岩公苑の
櫻は山裾を覆い岩と対比の美しい姿をみられます。

- ◎ ヒダリマキガヤ群生地：カヤの果実の種の核殻の螺旋状線が左巻きと、右巻きのもの
とがあり、左巻きのほうが右巻きの数より多いので「ヒダリマキガヤ」と呼ば
れている。
鎧岳の麓に12本群生していて、他の地域であまり類例がなく。県の天然記念
物に指定されています。
カヤは碁盤将棋盤などに用いられ、実からは油を採取されていた。

- ◎ 金強神社：葛にある稲荷大明神。明治の始め、萩村明七さんが屋根の茅葺の萱をオンジ
というところへ刈にいったところ、白い蛇が出ているのを見た。拝んで見て
もらうと、ダケ神社へ稲荷を祀れということだとわかった。そして15人の
賛同によって斎浄め、京都に参り勧請して祀った。
一説では冷え穂西氏の先祖が白狐の夢を見、また村人も同じ夢を見たので金
強神社を創った。

- ◎ 長走り滝：伝説では、天文年間(1532~55)に「椿井谷」に大蛇が棲んでいて、大いに人畜を害したので、「長野村」の井上喜曾なる豪の者が、笛を吹いて大蛇をおびき出して射殺した。
その笛を吹いた所が**笛塚**(フヤ塚)で**兜岳**上り口**の目無地藏(延命地藏)**のすぐ北にある。

またそのとき、さすがの喜曾も大蛇に気をのまれて、一時山の口のほうに逃げた。そのとき長く走ったところが「ナガ走り(滝)」で、もうよかろうと一息ついて物陰から覗き見した所が「ノゾキ岩」だという。

【椿井谷】 赤目四十八滝の滝川上流、落合道出合から南の谷を「椿井谷」と呼ばれています。

*長走り滝は横輪川の済浄坊溪谷にあります。兜岳登山口の「目無橋」から今井林道を約2km北上すると椿井峠で、「椿井谷」に沿って落合道出合に、そこから赤目四十八滝を経て赤目口まで5時間30分のハイキングコースがあります。